



写真-39 七合目風景



写真-40 右遠方にアボイ岳頂上



写真-41 新鮮なカンラン岩



写真-42 七合目からの太平洋



写真-43
ハイマツとアボイダケマギク

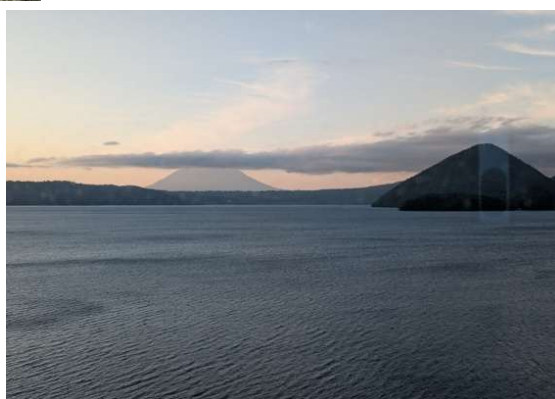


写真-44 夕暮れの洞爺湖と羊蹄山



写真-45 湖上花火

【6月6日】

写真-46 ロープウェイからの昭和新山

いよいよ最終日。昨夜はビュッフェで夕食、温泉にゆったりと浸かりちょっと贅沢に旅の疲れを癒やした。今朝も朝湯とビュッフェでの朝食でエネルギーを充填し、有珠山山麓にある有珠山ロープウェイ山麓駅を目指して8時にホテルを出発した。二つ目の世界ジオパークである「洞爺湖有珠山世界ジオパーク」は、11万年前の巨大火山噴火で出現した洞爺湖を中心としたジオパークでその範囲も広く半日あまりの日程で見られる場所は限定されるため今回は、昭和新山の大きさを体感することに重点を置くこととした。駐車場は昭和新山の麓にあり、昭和新山の大きさを感じながら、まず9時過ぎのロープウェイで有珠山山頂駅を目指す。ロープウェイから見た昭和新山と洞爺湖は絶景であった。山頂駅から130段の階段を上り、たどり着いたのが「有珠山火口原展望台」である。1977年の大噴火により出現し、今も活発な活動を続



けている大火山口を見ることができた。当日一帯は10mを超えるような寒風が吹いており、それより先に進むまでに1時間足らずでロープウェイ下山することにした。10時過ぎに下山した後、昭和新山の麓にある公園から昭和新山を眼前に見ることができた。昭和新山は、1943年から1945年にかけての有珠山の火山活動により1944年初めから1945年末の約2年で焔が175mほど盛り上がった溶岩ドームであり、その大きさには迫ってくるものがある。まさしく地球は生きて動いていることを実感できた。昭和新山の大きさを十分に体感した後、車に戻ったのは11時半で、帰りのフライトまでは十分時間あるため帰り道にある支笏湖に立ち寄ることにした。国道453号線で「支笏湖ビジターセンター」近くの駐車場に着いたのが12時半頃、周辺は観光地化されており、土産店やレストラン、湖畔公園などがある。ビジターセンターに向けて歩いていると焼きツブ貝を売っている店があり食したが、サザエより淡泊な味で美味であった。昼食は、支笏湖チップと呼ばれる、支笏湖で保護、増殖されているヒメマス定食を食した。澄み切った水で育ったヒメマスは臭みもなくマス本来の味を堪能することが出来た。32,000年前の火山活動で形成された支笏湖を堪能し、15時過ぎに千歳市に向けて出発した。道道16号経由で千歳市にあるレンタカーショップに着いたのが16時10分。レンタカーを返却し総移動距離920km余りの旅行は無事終了した。新千歳空港よりANA1272便で広島空港に降り立ったのがほぼ予定通りの21時、リムジンバス、JRで我が家に着いたのが23時頃であった。

3. さいごに

今回の旅の目的は、「はじめに」書いたとおりであり、「釧路湿原の広さ」「かんらん岩で出来たアポイ岳・幌満峡」「昭和新山の大きさ」それぞれについて十分体感できたと思っているが、アポイ岳の頂上を踏めなかったのは心残りである。現在、日本には47箇所のジオパーク（その内10箇所は世界ジオパーク）があるが、この旅を機会に、今後、日本のジオパークを巡る旅を続けていきたいと思っている。先の長い計画ではあるが、まずは、世界ジオパークと地元中国地方を優先して巡りたいと考えている。



写真-47 有珠山展望台



写真-48 昭和新山



写真-49 支笏湖ヒメマス



写真-50 支笏湖風景